



株主のみなさまへ

# 第95期 株主通信

2020年4月1日～2021年3月31日



Contents	新中期経営計画	1	高砂香料グループが取り組むSDGs	7
	トップメッセージ	2	会社情報	9
	連結財務ハイライト	3	株式情報/CSR	10
	連結財務データ・事業概況	5	事業紹介	裏表紙

高砂香料工業株式会社  
証券コード：4914

創業精神 / Corporate Philosophy

技術立脚の精神に則り社会に貢献する  
Contributing to Society through Technology

企業理念 / Corporate Mission

香りを原点とする革新的な技術を通して、  
新しい価値を創造し続ける

Our mission is to create new value  
through innovation rooted in **kaori**

※kaori : aroma in Japanese

Vision 2040

人にやさしく、環境にやさしく

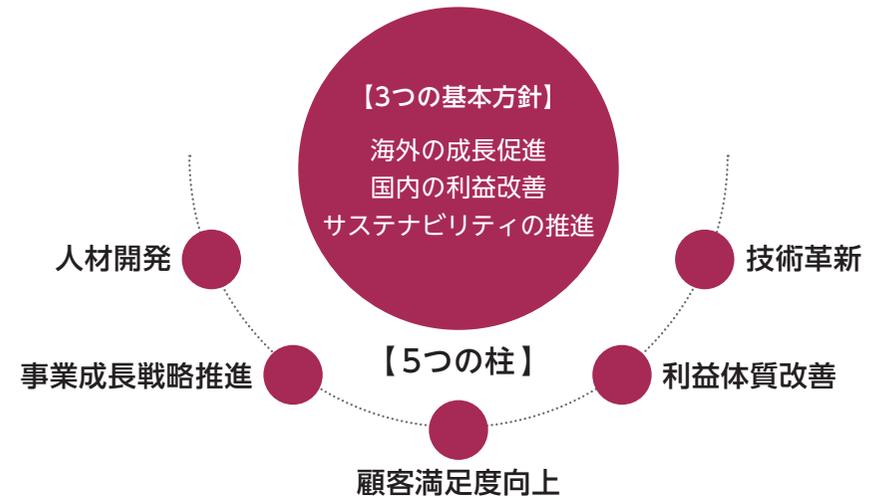
1. 多様な価値観を尊重する
2. 自然と共生し、人々の生活に彩りを与える
3. 夢と誇りを持って未知の世界へ挑戦する
4. 常に高い技術を追求する、かけがえのない会社

Care for People, Respect the Environment

Our vision is to be:

1. proud of our culture of respect, diversity and inclusion
2. in harmony with nature, enriching and bringing well-being to daily life
3. full of hope and ambition, confidently taking on new challenges
4. eager to keep innovating, remaining an indispensable company

New Global Plan (NGP-1) 2021年度～2023年度



【7つの重点課題】

- 1 | グローバル経営基盤の整備
- 2 | 海外拠点の事業部門強化のための仕組み作り
- 3 | 合成事業生産体制の再構築
- 4 | フレーバー・フレグランス製品生産効率性の追求
- 5 | 海外拠点と日本を繋ぐ安定した人材の開発
- 6 | 先端科学による競争力のある技術の創成
- 7 | SDGsへの貢献を意識した製品の開発



代表取締役社長 **榑村 聡**

## 今後も、香りを原点とする革新的な技術を通して、新しい価値を創造し続けてまいります。

2020年度で中期経営計画『TAKASAGO GLOBAL PLAN (One-T)』(2018-2020年度)が終了し、創業101年目となる2021年度より新たに、3カ年中期経営計画「New Global Plan (NGP-1)」が始動しました。今回は新中期経営計画の概要について、詳しくお伝えします。

**Q.** 2020年度の振り返り、事業の状況をお聞かせ下さい。

**A.** 2020年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により、世界的に景気は大きく低迷しました。このような中、高砂香料グループの売上高は前期比1.4%減となりました。部門別に見ますと、フレグランス部門において芳香剤向け、ハンドソープ向け等が好調に推移した一方で、フレーバー部門においては当社および国内子会社の飲料向け等が低調に推移しました。また、アロマイ

ングリディエーツ部門では主力品メントール等が、ファインケミカル部門でも医薬品中間体が低調に推移しました。

一方、利益面では、営業利益は同136%増となり、経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益も増益となりました。

原料価格が前期よりも低下したことや、海外子会社のフレグランス部門が好調に推移したこと、加えて感染拡大の影響から一部経費が減少したことが増益に寄与いたしました。

### 創業精神

技術立脚の精神に則り社会に貢献する

### 企業理念

香りを原点とする革新的な技術を通して、新しい価値を創造し続ける

### Vision 2040

人にやさしく、環境にやさしく

1. 多様な価値観を尊重する
2. 自然と共生し、人々の生活に彩りを与える
3. 夢と誇りを持って未知の世界へ挑戦する
4. 常に高い技術を追求する、かけがえのない会社



2021年度は、感染拡大抑制と経済活動推進のバランスを模索する中で、緩やかながらも改善基調を迎えられますが、依然として不確実性の大きな状況が続くものと思われまます。

高砂香料グループの売上高は、当期比0.4%増でほぼ横ばいを見込んでおります。利益面は、感染予防措置で当期は減少した一部経費が戻ることや、将来成長のための研究開発費、販売管理費が増加することにより減益を予想しております。

**Q. 創業精神、企業理念、Vision 2040についてご説明願います。**

**A.** 「技術立脚の精神に則り社会に貢献する」という文言は、高砂香料グループにおける普遍的な原則であ

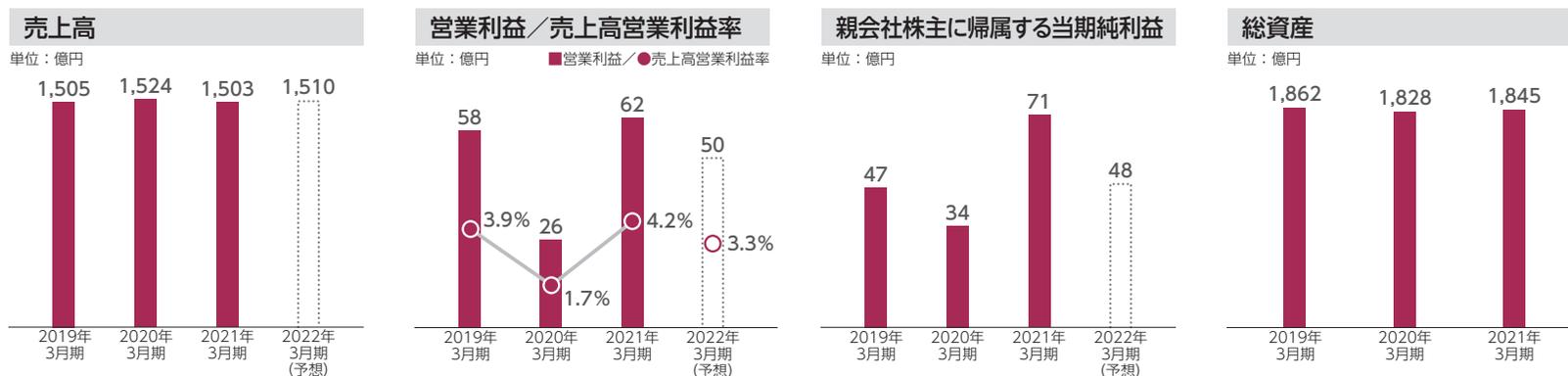
り、創業から100年に亘り、我々の支えとなる「企業理念」でしたが、このたび創業100周年という節目を迎え、「企業理念」には「高砂香料らしさ」を盛り込み、「香りを原点とする革新的な技術を通して、新しい価値を創造し続ける」とし、今までの企業理念は「創業精神」といたしました。

これらの「創業精神」「企業理念」を基に、先ほど申しましたグローバルでの全従業員が共感し、目指すことのできる、20年後2040年の高砂グループの「ありたい姿」が「Vision 2040」にあたります。

「Vision 2040」は「人にやさしく、環境にやさしく」をスローガンにしていますが、一人ひとりが輝ける豊かな会社の実現を目指す上で、常に相手の立場に立ち、共に考えることを「やさしさ」と表現しています。人々が身体的、精神的、社会的にも良い状態でいられる未来を

連結財務ハイライト

| CONSOLIDATED FINANCIAL HIGHLIGHTS |



創造する会社でありたいと思っております。もちろん、人の健康への配慮、地球環境への配慮なくして製品作りはあり得ません。

スローガンに続く4つの項目は、それらを具体的に表したものであり、それぞれ、企業としての姿勢、社員としての姿勢を示しています。

**Q. 2021年度から始まる3か年中期経営計画についてご説明願います。**

**A.** 創業101年目となる2021年度から始まります3か年中期経営計画は「New Global Plan(NGP-1)」と名付けました。NGP-1は「3つの基本方針」「5つの柱」「7つの重点課題」から成り立っています。

「3つの基本方針」は、「海外の成長促進」「国内の利

益改善」「サステナビリティの推進」です。

以前は、海外での利益が安定しない中、日本が安定した利益を生み出すという利益構造でしたが、近年は、海外拠点が売上高、営業利益ともに安定的に成長してきており、グループ全体の業績を支えています。

NGP-1期間においても、海外市場での成長を目指してまいります。

国内は、大きな市場の拡大は見込めず、近年は利益面で厳しい状況が続いております。

しかし、海外での成長が著しいとはいえ、今なお売上高全体の4割以上を国内の売上が占めていることから、安定した収益を生み出す基盤としての役割を担う地域となるべく、利益改善を目指してまいります。

また、「Vision 2040」を実現し、長期的に事業の成長を目指す観点から「サステナビリティの推進」を基本方

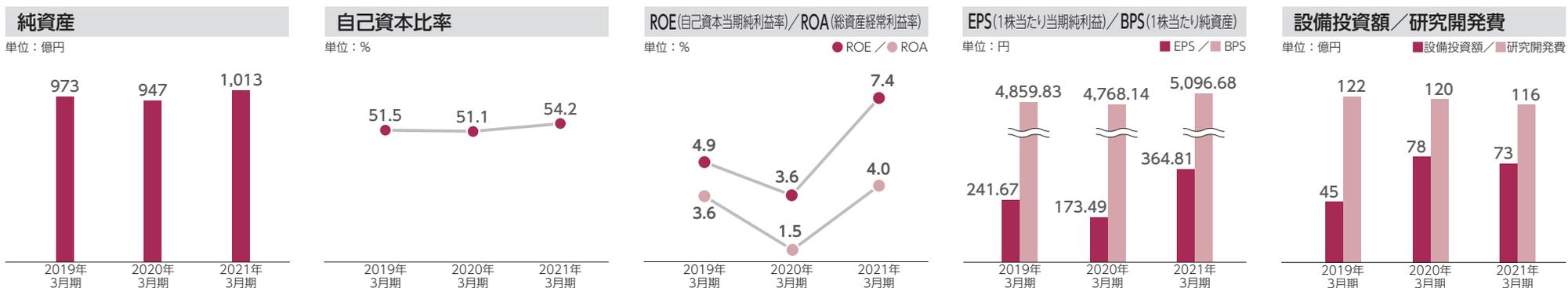
針の一つにしています。

「5つの柱」は、前の中期経営計画と同じ項目になりますが、前の中期経営計画では、2年目に原料高騰の影響を大きく受けたことや、3年目はコロナ禍で、十分な対応、課題解決までには至らなかった事情もあり、NGP-1でもこれらの柱を軸に継続して取り組んでまいります。

「7つの重点課題」は「3つの基本方針」「5つの柱」を受けて、「Vision 2040」に向けて新たに進めていくべきこと、前中期経営計画「One-T」から引き続き、NGP-1において深化させるべきこと、を選びました。

高砂香料グループは新たな企業理念を基に「Vision 2040」を掲げてさらに成長してまいります。

株主の皆様には、高砂香料グループの更なる発展にご期待いただき、これからも長期的な支援を賜りますようお願い申し上げます。



経営成績

単位：億円

科目	2017年3月期 (第91期)	2018年3月期 (第92期)	2019年3月期 (第93期)	2020年3月期 (第94期)	2021年3月期 (第95期)
売上高	1,367	1,415	1,505	1,524	1,503
売上原価	925	967	1,047	1,098	1,053
売上総利益	442	448	457	426	450
販売費及び一般管理費	370	384	398	399	387
営業利益	71	63	58	26	62
経常利益	77	67	67	28	72
親会社株主に帰属する当期純利益	63	70	47	34	71

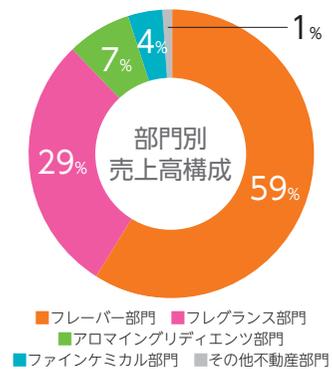
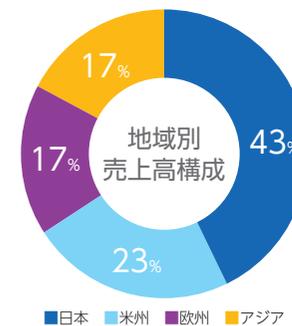
**Point 売上高** フレグランス部門が好調に推移したものの、フレーバー部門等が低調に推移し、対前期比21億円減の1,503億円となりました。

**Point 営業利益** 原料価格の低下等及び販売費及び一般管理費の減少等により、対前期比36億円増の62億円となりました。

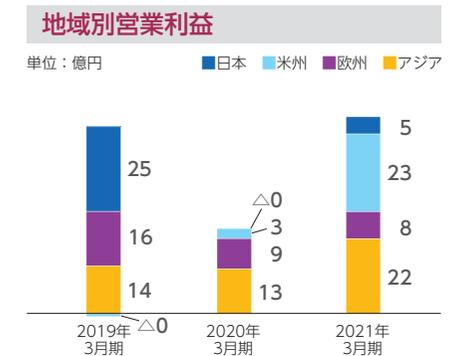
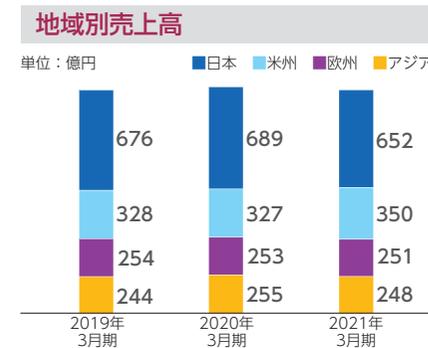
財政状態

単位：億円

科目	2017年3月期 (第91期)	2018年3月期 (第92期)	2019年3月期 (第93期)	2020年3月期 (第94期)	2021年3月期 (第95期)
流動資産	880	918	943	909	917
固定資産	891	979	918	918	927
流動負債	480	527	529	554	503
固定負債	418	386	358	326	327
純資産	872	984	973	947	1,013
(うち株主資本)	(736)	(796)	(834)	(853)	(912)
総資産	1,771	1,897	1,862	1,828	1,845



地域別概況



■ 日本

当社のフレーバー部門及び国内子会社が低調に推移したことにより減収となったものの、営業活動が制限され販管費が減少したこと等により増益となりました。

■ 米州

米国子会社においてフレグランス部門が好調に推移したこと等により増収増益となりました。

■ 欧州

アロマイングリディエーツ部門のスペイン子会社が苦戦し減収減益となりました。

■ アジア

中国子会社が低調に推移し、減収となったものの、シンガポール子会社等においてフレグランス部門の利益が改善したことにより増益となりました。

## 部門別概況



### フレーバー部門

売上高 **889**億円 [前期比3.2%減 ↓]

#### 事業内容

飲料やデザート、菓子、乳製品、調理食品などに、優れた香りと風味を付与するフレーバーを提供し、さらに果汁やコーヒー、お茶といった食品原料も提供しています。



- 当社及び国内子会社において飲料向け等が低調に推移し減収となりました。



### フレグランス部門

売上高 **434**億円 [前期比6.6%増 ↑]

#### 事業内容

香水や化粧品やシャンプー、洗剤、芳香剤、入浴剤といった商品に使用される香りを、残香性や拡散性、安定性にも優れたかたちでクリエーションし、提供しています。



- 米国子会社において芳香剤向け等が好調に推移し、増収となりました。

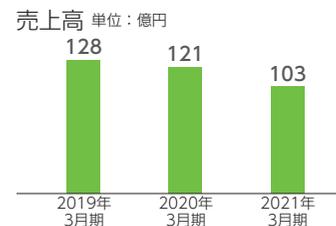


### アロマイングリディエーツ部門

売上高 **103**億円 [前期比14.8%減 ↓]

#### 事業内容

光学活性で革新的かつユニークな香りの素材を開発し、高品質のフレーバー、フレグランスのクリエーションに用いています。



- 主力品メントール等が低調に推移し減収となりました。

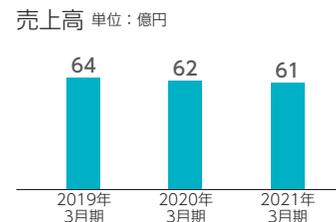


### ファインケミカル部門

売上高 **61**億円 [前期比1.4%減 ↓]

#### 事業内容

独自の触媒・不斉合成技術を核に、連続フロー技術による医薬品中間体、電子写真感光体などの機能性素材を提供しています。



- 医薬品中間体が低調に推移し減収となりました。

※上記の他に、その他不動産部門の売上高14億円がございます。



**SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS**

SDGsは「Sustainable Development Goals」の略称で、2015年の国連サミットで採択され、加盟193カ国が2030年のゴールを目指して掲げた国際目標です。当社は2017年に国連グローバル・コンパクトに署名するとともに、SDGsの17の目標・169のターゲットについて、事業活動を通して貢献できることを精査し、地球規模の課題解決に取り組んでいます。

高砂とSDGs <https://www.takasago.com/ja/sustainability/sdgs.html>

**CSR**



一つひとつの課題に対する  
着実な取り組みでCSR推進強化を目指す

取締役 常務執行役員  
コーポレート本部長 兼 EHS Executive  
山形 達哉

● EHSと関連するSDGs目標



CO<sub>2</sub>排出量削減(原単位)  
**32.6%減**  
対2010年比

● 人権と結びつく目標



人権デューデリジェンス  
実施拠点・オフィス  
**100%**  
(2019年度)

**生産・物流**



CO<sub>2</sub>排出削減や水資源で  
年度目標を上積みし  
主力工場の製造改革や物流改革に着手

執行役員  
生産本部長、磐田工場長  
隈元 浩康

● 生産・物流に関連するSDGs目標



## 高砂香料グループのCSR活動は、環境、健康・衛生、安全の他、基本的人権の尊重やリスク管理など幅広いテーマが設定されています。推進体制と特に進捗している取り組みは何ですか？

2017年にCSR推進会議を発足させグローバルでコミュニケーションを図りながらCSR活動をグループ全体で強化してきています。また、前中期経営計画「One-T」(2018～2020年)においてはCSR推進強化の3か年と位置づけ、気候変動問題、人権の尊重など地球規模の社会的課題にも重点を置いて取り組んできました。

気候変動問題ですが、グローバル企業に求められるTCFD<sup>\*1</sup>の4つの推奨項目(ガバナンス、リスクと機会、戦略、指標と目標)に沿って高砂香料グループの気候変動に対する活動指針を2020年4月に開示しました。その中で、目標設定においてはSBTの基準に沿うように現在準備を進めております。CO<sub>2</sub>の排出削減をいかに実行していくかは今後の課題ですが、2019年環境省主催のサプライチェーン排出量算定支援を受け、スコープ3(サプライチェーン)における区分ごとの計算ができるようになり現状分析にも着手しました。

当社グループでは従来よりCO<sub>2</sub>排出量削減を重要な課題と位置づけており、2009

年から続けているEHS100プランでも、環境に関する目標の一つとして、水使用量の削減、廃棄物の削減とともに取り組んできたテーマとなっています。継続的な省エネ活動に加え、CO<sub>2</sub>排出係数の低いエネルギーや再エネ由来電力へ切り替えを進めた結果、原単位で2019年度に2010年度比32.6%削減を達成いたしました。

## マテリアリティの項目で「人権」を特定されていますが、高砂香料グループにおける人権に関する取り組みを教えてください。

当社グループでは、2019年に「高砂香料人権ポリシー」を策定しており、その具現化プロセスとして幅広い領域を包含する日本弁護士連合会のガイダンスを参考に人権デューデリジェンスの仕組みを構築し、国内外の全事業所で人権侵害や意図しない加担のないことを確認しました。

この取り組みを通じて、全部門にて法令遵守を再点検するプロセスの構築、またITセキュリティ上の脆弱性などを可視化し改善に努めました。今後も、これを続けていくことでグローバル企業としてさまざまな面での責任を果たしていきたいと思っております。

※1: TCFD(気候変動関連財務情報開示タスクフォース)は金融安定理事会(FSB)が2017年に設置。ESG投融资を行う機関投資家・金融機関にとって、企業が気候変動のリスク・機会を認識し経営戦略に織り込むことを重視し、その開示を推奨している。

## SDGs目標で当てはまる項目と主な取り組みを教えてください。

「9.産業と技術革新の基盤をつくろう」と「12.つくる責任 つかう責任」、そして「13.気候変動に具体的な対策を」、さらに排出管理においては「14.海の豊かさを守ろう」と「15.陸の豊かさを守ろう」が該当するでしょう。

このうち高砂香料グループの最重要課題である気候変動への対策(CO<sub>2</sub>排出削減)では、各工場の地道な省エネ活動が功を奏し、排出削減目標を上回る成果を上げています。また、エネルギーと同様に貴重な水資源についても2018年度に2010年度比20%の削減目標を達成し、2019年度はさらに22.3%削減(実績)し、2020年度目標を「25%削減」としています。

一方で、エネルギー消費量が多い合成プラントが稼働する操業51年目の磐田工場は、主力商品のメントール関連施設の老朽化が顕著で、計画的な再編が不可欠です。特に深冷工程のエネルギー消費量が工場全体の23%を占め、製造プロセスの見直しによる省エネや労働環境の改善を目指し、推進チームが取り組んでいるところです。

また、物流分野では、2020年4月、高砂香料グループの物流指針として、地球環境への配慮や地域社会の保全を掲げる経営基本方針に則り、「コーポレート物流ポリシー」を定め、取り組みを加速しています。

## 今後、注力すべき課題や取り組み方針などを教えてください。

気候変動問題への対応として、サプライチェーンのCO<sub>2</sub>排出量のうち、スコープ3のカテゴリー4「輸送・配送(上流)」の削減に取り組んでいます。その一例として、平塚工場の火災を機に広島県に新工場を建設したことでフレーバーの生産拠点が東西に分散し、保管倉庫を兼ねた平塚配送センターへ運ぶ拠点間物流の距離が長くなりました。これを改善するため、一部の製品を工場から納入先への直接出荷に切り替えて効率化を図っています。

また、メントールなどグローバルに供給している製品は、海外拠点での保管を検討しています。主要拠点に計画的なコンテナ輸送で在庫を分散することで、自然災害に対するリスク回避、輸送効率の向上による環境負荷の低減、デリバリースピードの向上などが期待できます。

物流の効率化には他企業とのパートナーシップを活かした改革が、変化の激しい時代に適応するキーワードと考えています。その一環として、築24年の平塚配送センターの機能性を検証し、より効率的な輸・配送を実現するため、アウトソーシングも視野に物流拠点の見直しを進めます。

グローバルネットワーク



ヨーロッパ・中東・アフリカ

フランス	Takasago Europe Perfumery Laboratory S.A.R.L.
ドイツ	Takasago Europe G.m.b.H. Takasago International (Deutschland) G.m.b.H.
イタリア	Takasago International (Italia) S.R.L.
スペイン	Takasago International Chemicals (Europe), S.A. Takasago International (España) S.L.U.
イギリス	Takasago (U.K.) Ltd.
トルコ	Takasago International Turkey Esans Ve Aroma San. TIC. A.S.
南アフリカ	Takasago International Corporation South Africa (Pty) Ltd.
マダガスカル	Takasago Madagascar S.A.
モロッコ	STE Cananga S.A.R.L.

アメリカ大陸

アメリカ	Takasago International Corporation (U.S.A.) Centre Ingredient Technology, Inc.
メキシコ	Takasago De Mexico S.A. De C.V.
ブラジル	Takasago Fragrâncias E Aromas Ltda.

アジア・パシフィック

日本	Takasago International Corporation
シンガポール	Takasago International (Singapore) Pte. Ltd.
フィリピン	Takasago International (Philippines), Inc.
タイ	Takasago Import and Export (Thailand) Ltd.
インドネシア	PT. Takasago International Indonesia PT. Takasago Indonesia
インド	Takasago International (India) Pvt. Ltd.
パキスタン	Takasago International (Pakistan) Pvt. Ltd.
中国	上海高砂香料有限公司 上海高砂・鑑臣香料有限公司 廈門華日食品有限公司 高砂香料(広州)有限公司
韓国	Takasago International Corporation (Korea)
マレーシア	Takasago International (Malaysia) Sdn.Bhd.

会社概要

会社名	高砂香料工業株式会社 (TAKASAGO INTERNATIONAL CORPORATION)
本社	〒144-8721 東京都大田区蒲田5丁目37番1号 ニッセイアロマスクエア 17F
TEL	03-5744-0511
国内事業所	大阪支店、名古屋支店、福岡支店、 平塚研究所、平塚工場、磐田工場、鹿島工場、 三原工場
海外事業所	世界28の国と地域に事業拠点がございませ
創業	1920年2月9日
資本金	92億4,853万8,972円
従業員数	1,030名 (高砂香料グループ3,719名)

取締役および監査役 (2021年6月24日現在)

代表取締役社長	梶村聡
取締役	野依良治
取締役	藤原久也
取締役	山形達哉
取締役	染川健一
取締役	谷中史弘
取締役	松田浩明
取締役	水野直樹
取締役	川端茂樹
常勤監査役	小野野哲
常勤監査役	川上幸宏
常勤監査役	中江康男

(注) 1. 取締役野依良治氏、松田浩明氏は社外取締役であります。  
2. 監査役小野野哲氏、中江康男氏は社外監査役であります。

執行役員 (2021年6月24日現在)

社長執行役員	梶村聡
常務執行役員	藤原久也
常務執行役員	山形達哉
常務執行役員	染川健一
常務執行役員	谷中史弘
常務執行役員	水野直樹
常務執行役員	川端茂樹
執行役員	隈元浩康
執行役員	佐藤孝之
執行役員	川野文明
執行役員	平田明彦
執行役員	川野明彦
執行役員	川野明彦

国内事業所一覧

本社	平塚研究所
大阪支店	平塚工場
名古屋支店	磐田工場
福岡支店	鹿島工場
	三原工場

国内子会社

株式会社高砂ケミカル	高米産業株式会社
高砂スパイス株式会社	高和産業株式会社
高砂フードプロダクツ株式会社	有限会社高砂保険サービス
高砂珈琲株式会社	南海果工株式会社
株式会社高砂インターナショナルコーポレーション	高砂香料西日本工場株式会社
株式会社高砂アロマス	



毎日の生活に欠かせない様々なシーンに、我々の事業は関わっています。その中から今回はアロマイングリディエーツ事業を紹介します。

## アロマイングリディエーツ事業

アロマイングリディエーツは主にフレーバー、フレグランスの原料です。

フレーバー、フレグランスの市場が成長すると、アロマイングリディエーツの市場も成長します。

### ① アロマイングリディエーツとは



一つひとつの音が合わさって音楽になるように、一つひとつの原料がブレンドされて香料になります。アロマイングリディエーツ事業は、香水、シャンプー、柔軟剤等の香りのもとになる原料を開発、製造、販売しております。そのまま良い香りのものであれば、他の原料と混ぜあわせることで良い香りになるものもあります。香りの拡散性を高める、持続性に寄与する、冷感を与えるなどの香り以外の特性がある素材もあります。原料を組み合わせることで表現の可能性が無限に広がります。

### ② サステナビリティを推進して、まもなく40年



高砂香料のメントールは、環境に配慮した原料を使用し、環境負荷の少ない製造方法を採用してからまもなく40年を迎えます。またメントールの製造過程を応用して、フローラルやフルーティーなどのさまざまな香調の素材が得られます。今後も自然由来原料、不斉合成技術やバイオ技術を生かし、環境に配慮した製品ラインナップを増やしていきます。